

福島相双復興推進機構 第3回畜産セミナー 次第

日 時：令和2年11月11日(水)13:00～17:00

場 所：文化の館ときわ(住所：田村市常葉町常葉字町裏1番地)

主 催：公益社団法人 福島相双復興推進機構

後 援：田村市、福島県、農林水産省東北農政局、JA 福島中央会、
株式会社日本政策金融公庫福島支店、公益社団法人福島県畜産振興協会

【 次 第 】

1. 開会 13:00～13:10

(1)主催者挨拶

福井 邦顕 (公社) 福島相双復興推進機構 理事長

(2)福島相双復興推進機構・畜産支援のご紹介

緒方 弘志 (公社) 福島相双復興推進機構 営農再開グループ長

2. セミナー

(1)座長挨拶 13:10～13:15

萬田 富治 (公社) 福島相双復興推進機構 技術参与

(2)講演

①「山間地域の放牧畜産の技術と経営」 13:15～13:55〔40分〕

講演内容：低コスト・省力生産を実現する水田放牧や小規模放牧の実際

梨木 守氏 (一般社団法人日本草地畜産種子協会・放牧アドバイザー)

②「臨床獣医の四方山話」 13:55～14:55〔60分〕

講演内容：女性や高齢者が長く・楽しく続けられる子牛生産技術の実際

松永 俊明氏 (松永産業動物院・代表／栃木県矢板市)

③「田村市の現状と畜産振興方策」 14:55～15:15〔20分〕

山内 洋志氏 (田村市農林課長)

(3)総合討論「和牛繁殖経営の展開方策」 15:15～15:55〔40分〕

3. 閉会の挨拶 15:55～16:00

福井 邦顕 (公社) 福島相双復興推進機構 理事長

4. 松永先生他講師陣を囲んで農家のみなさまとの懇談 16:00～17:00

みなさま、ご自由にご参加ください。

【事務局】

(公社)福島相双復興推進機構 営農再開グループ畜産班

電話：松宮 070-3543-2256、藤野 070-3889-7544

福島相双復興推進機構・第3回畜産セミナー 講演者等プロフィール

【 座 長 】

○ 萬田 富治（まんだ とみはる）氏

〔公益社団法人福島相双復興推進機構 技術参与〕

農林水産省草地試験場主任研究官（那須）、同北海道農業試験場（芽室・札幌）、同中国農業試験場（島根県大田市）、同畜産試験場（つくば）、農研機構畜産草地研究所副所長・草地研究センター長（那須）、北里大学獣医学部教授（十和田）・附属フィールドサイエンスセンター長（八雲）、公益財団法人生物科学安全研究所理事長（相模原）等を経て、現在、公益社団法人福島相双推進機構技術参与、一般財団法人生物科学安全研究所顧問。

試験場や大学で教育研究を続けてきた日本における草地畜産のパイオニア、全国で先導的な経営に取り組む生産者と幅広く交流、現場に学ぶ信条。

【 講 師 】

○ 梨木 守（なしき まもる）氏

〔(一社)日本草地畜産種子協会・放牧アドバイザー〕

草地試験場草地機能開発研究室長、東北農業試験場放牧管理研究室長、畜産草地研究所草地研究監を歴任。

農業試験研究機関に在職中は主として草地の維持管理、放牧管理に関わる試験研究を担当。専門は草地の施肥管理、雑草防除、草地更新、放牧制御に関わる分野である。とくに公共牧場の草地の維持管理を得意とする。

○ 松永 俊明（まつなが としあき）氏

〔獣医師、松永産業動物院 代表（栃木県矢板市）〕

昭和43年4月日本大学農獣医学部獣医学科を卒業。

その後、青森県、栃木県内酪農組合で診療経験を経てカナダでの酪農経験をした後、昭和50年栃木県矢板市で開業し現在に至る。

業務内容は乳牛、和牛を主として、診療、人工授精、受精卵移植を行っている。特に受精卵移植には力を注ぎ、酪農家と和牛農家を繋ぐ借り腹方式で和牛の生産方法に一石を投じた。

○ 山内 洋志（やまうち ひろし）氏

〔田村市農林課長〕

福島県会津坂下町の出身。平成4年4月に農林水産省入省後、主に畜産関係の部署を経験（飼料作物の改良、自給飼料増産、競馬監督、牛トレーサビリティ、BSE対策特別チームなど）。2度にわたる東北農政局勤務時代（平成12～13年度、同26～29年度）には、企画調整、消費・安全関係の部署を担当。

農水省外への出向として、国土交通省（北海道の畜産公共事業）、内閣官房（地域活性化として構造改革特区）、地方競馬全国協会（地方競馬の活性化）を経験。

令和2年4月から田村市役所に農林課長として着任。

福島相双復興推進機構の 畜産支援のご紹介

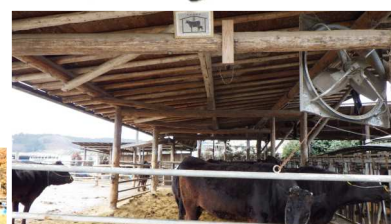
畜産農家様のお役にたてるよう、各地で活動を展開しています。



(例)



自由参加のセミナーや見学会の開催
(南相馬市、葛尾村、田村市)



**有志の畜産農家様との、
県外の先導農家訪問・見学会**
(茨城県大子町、栃木県矢板市)



**専門家が個別にお伺いしての、
経営・草地利用等の改善支援**



**このほか、地域発意の畜産事
業立ち上げや、耕畜連携マッ
チングのサポートなど**



**興味をもったら、福島相双復興推進機構
営農再開グループの「畜産班」へ！**

担当：松宮嘉一、藤野清貴

電話：松宮070-3543-2256 藤野070-3889-7544

メール：kanmin.chikusan@fsr.or.jp(直通)

① 各地での活動

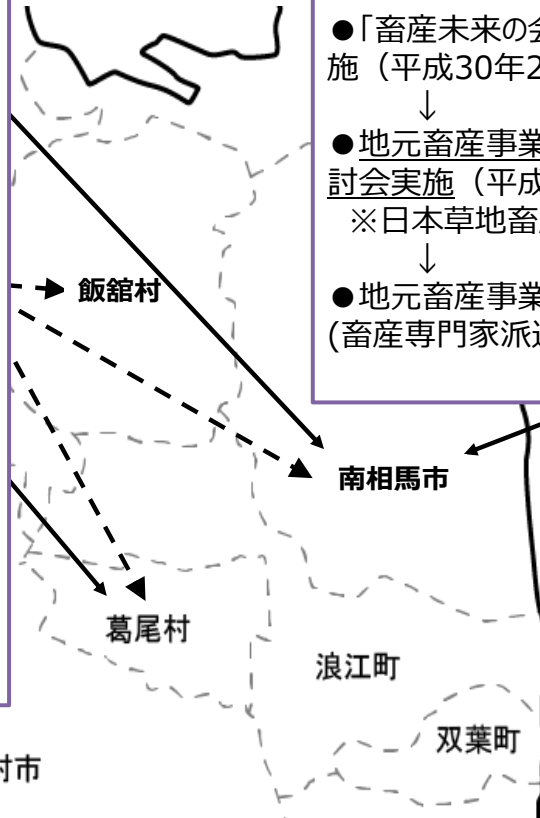
【全体】

- 「畜産酪農懇談会・第1回セミナー」
(於南相馬市・平成30年6月19日)
↓
- 畜産農家有志での茨城県大子町の益子農林(第1回セミナー講師)・CBS訪問見学会(平成30年11月30日)
※南相馬市、飯館村、葛尾村の畜産農家が参加
↓
- 「畜産酪農懇談会・第2回セミナー」
(於葛尾村・平成31年3月18日)

※平成31年度／令和元年度は、台風被害や新型コロナウイルス感染拡大により、セミナーは開催できず延期。
↓
- 「畜産酪農懇談会・第3回セミナー」
(於田村市・令和2年11月11日)

【南相馬市など】

- 「畜産未来の会」との、畜産勉強会を実施(平成30年2月28日)※JAふくしま未来と連携
↓
- 地元畜産事業者様の牧場計画現地検討会実施(平成30年10月22日)
※日本草地畜産種子協会と連携
↓
- 地元畜産事業者の経営改善支援実施(畜産専門家派遣)(令和元年8月～)



【葛尾村】

<ヤギ牧場(肉・乳・観光)>

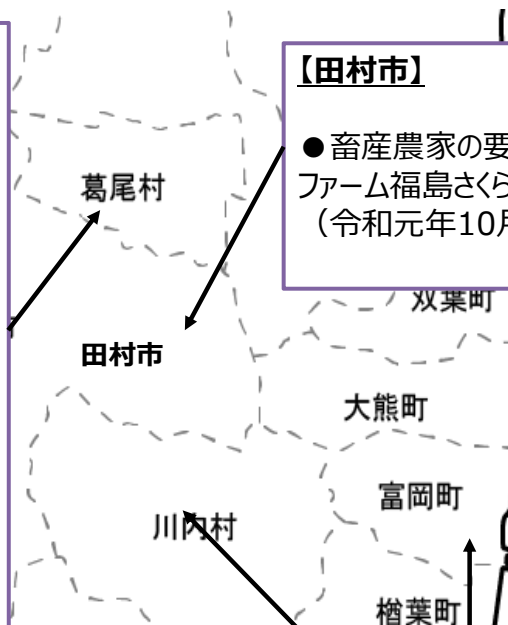
- 葛尾村畜産勉強会実施
・平成28年10月、12月、翌年5月(計3回)
↓<波及効果>
- 地元有志による(株)かつらおファーム設立。
(平成29年12月)
※会社設立時より経営に関する方針、各種活動や交渉事について相談対応・協力。
- ・平成30年12月 (株)農と資本提携成立
- ・令和2年中 肉用羊(ハラル食向け)出荷開始
石鹼製造施設の整備
※石鹼製造施設整備等に係る「里山経済活性化事業」の専門委員として、萬田技術参与が参画しサポート。
- ・令和3年5月 観光牧場部門オープン予定

<ヒツジ牧場(肉)>

- 葛尾村プレミアム羊肉プロジェクトスタート
・令和2年度JRA畜産振興事業採択
～3カ年で実施
※葛尾村めん羊事業者と弘前大学等が連携実施。相双機構と村役場が現地サポート。
※弘前大学とのマッチングは、萬田技術参与に仲介による。

【田村市】

- 畜産農家の要望を受け、(株)JA和牛ファーム福島さくらCBS見学会を企画・実施(令和元年10月4日)



【富岡町・川内村など】

- 富岡町内でソルガム実証栽培・土壌環境回復に取り組む企業・地元農家と、堆肥供給先を探していた川内村の酪農家を耕畜連携マッチング(平成30年4月)
※そのほか県内外の専門機関紹介等を実施

<なお、富岡町での当該PJは既に終了した>

<一過性でない「持続的な活動」を目指す>

② 取り組み事例

○「畜産セミナー」の開催

地元自治体やＪＡ等関係機関と連携し、県外の先進農家等を講師に招きセミナーを開催、畜産農家同士のネットワーク構築と技術・経営の向上に取組

第3回セミナーを、令和2年11月11日（水） 田村市「文化の館ときわ」にて開催予定。
テーマは、放牧技術や、女性や高齢者が長く楽しく続けられる子牛生産技術について。



第2回セミナーのようす（葛尾村）

○プレミアム羊肉生産実証事業支援

リンゴジュース粕を飼料に取り入れ、プレミアム羊肉を生産する現地実証試験の取組を支援。

令和2年度のJRA畜産振興事業に採択され、7月から事業開始 （期間）R2～R4年度

（生産実証）（株）牛屋（葛尾村）（技術実証）弘前大学農学生命科学科

第1回専門委員会出席（7/15）

- ・R2年度は6頭（リンゴジュース粕混合発酵飼料給餌4頭、比較用2頭）飼育
- ・給餌期間は出荷前2ヵ月間を設定。今年度は11,12月に給餌、1月出荷予定。
- ・11月の給餌開始までに、（株）牛屋にて畜舎整備を実施。
- ・飼料用ジュース絞り粕の福島県内での確保について、福島県内のジュース工場と調整中。

※機構の役割：（株）牛屋と関係機関との連絡・調整、生産実証データ収集支援



稀少な国産の肉用羊

○かつらおファーム支援

ヤギによる肉やヤギミルク石鹸製造販売、観光牧場等に取り組む、村民出資による株式会社「かつらおファーム」を会社設立時から支援。ハラル食を取扱う企業との資本提携など、相双地域では例のない先進的な取組を進めるにあたり、企業形態選択、資本提携や収入基盤の検討、関係機関との交渉等の場面において、当機構が相談に乗ったり交渉支援をしてきた。

- ・R2年9月中旬より石鹸製造場整備に着手。
- ・R2年10月頃に肉用山羊を初出荷の予定（ただし初回は千葉の第二牧場から／（株）農へ販売）。
- ・R3年5月に観光牧場部門オープン（相双機構で、PR兼ねたタイアップセミナー企画）。



葛尾村の山羊牧場

3

③ 事例紹介

○事業者様の牧場計画現地検討会

- ・南相馬市の畜産事業者様の牧場現地検討会を開催。
- ・（一社）日本草地畜産種子協会から、放牧アドバイザーを講師にお招きしました。



- ・平成30年10月22日開催
- ・主催：福島相双復興推進機構（ご関心を持たれた他の畜産事業者の皆様ほか、相双農林事務所様、南相馬市役所様、東北農政局様にもご参加いただきました。）

4

○先進事例見学会

- ・茨城県大子町の益子農林、CBSを、相双地域の畜産有志で見学。
- ・益子農林代表は、第1回セミナー講師の益子光洋様。

◎キャトルブリーディングステーション（CBS）＜11時～12時＞



CBSの説明

預託牛

「養牛カメラ」

「牛歩」



飼料調製の説明

◎牛舎、省力技術、放牧場 ＜13時30分～16時＞



木造牛舎①



木造牛舎②



左の牛舎に隣接するパドック



パイプハウス牛舎



鉄筋牛舎（建設中）



林間放牧場



らくらくきゅうじくん



チェーンブロック三脚



急峻な棚田跡地の放牧場利用

- ・平成30年11月30日開催
- ・主催：福島相双復興推進機構

○畜産農家と耕種農家の耕畜連携支援

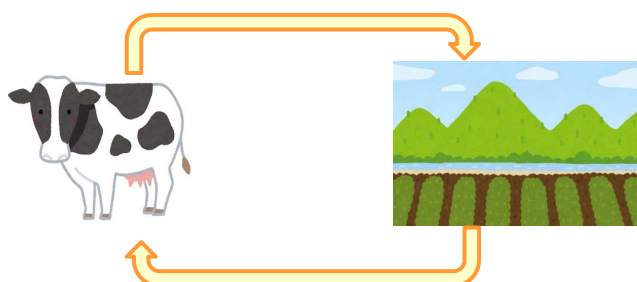
- 訪問活動を通じ把握した畜産農家（酪農家）の堆肥処理の課題に対し、堆肥需要のあった耕種農家・企業によるソルガム実証栽培プロジェクトとのマッチングを実施。

【支援概要・成果】

- 訪問活動を通じて伺った川内村の酪農者の課題（堆肥処理に困っている）に対し、除染による地力不足や土壌環境回復のためにソルガム栽培を計画、堆肥調達が課題となっていた富岡町の耕種農家をマッチングし、両者間で堆肥取引が成立。
- ソルガム実証栽培のサポートのため、県内外の関係機関を紹介。

【耕畜連携のイメージ】

ふん尿などを再利用した堆肥



堆肥を施した農地で栽培された飼料作物、稲など

（当該ソルガムの実証栽培プロジェクトは終了済み）

【ソルガム】



○畜産関連施設視察会

- ・地域の畜産農家からのご要望を受け、2019年3月に完成した(株)JA和牛ファーム福島さくら(田村市)のCBS視察会を企画・開催。



- ・令和元年10月4日開催
- ・地元畜産農家9名参加、JA職員の解説を受けながら見学を行った。

第3回畜産セミナーのご案内

- ・被災地域の畜産事業者様支援の一環としまして、福島相双復興推進機構では、第3回畜産セミナーを田村市で開催いたします。
- ・今回は、中山間地域において、**低コストで省力的な自給飼料生産と連携した、持続できる肉用牛繁殖経営の方向性**を探ります。関係者のみなさまの多数のご参加をお待ちしております。



○ 開催概要

- 1 日時：令和2年11月11日（水） **参加無料**
13：00～16：00（セミナー）、
16：00～17：00（座談会・自由参加）
- 2 主催：公益社団法人 福島相双復興推進機構
- 3 後援：田村市、福島県、農林水産省東北農政局、
JA福島中央会、（株）日本政策金融公庫福島支店、
（公社）福島県畜産振興協会
- 4 場所：文化の館ときわ（福島県田村市常葉町常葉字町裏1）
（裏面に周辺地図を記載しています。）

○ 次 第

- 1 開 会（主催者挨拶／福島相双復興推進機構の畜産支援のご紹介等）
- 2 セミナー

（1）講演

①「山間地域の放牧畜産の技術と経営」

内容：低コスト・省力生産を実現する水田放牧や小規模放牧の実際

講師：梨木 守 氏（（一社）日本草地畜産種子協会・放牧アドバイザー）

②「臨床獣医の四方山話」

内容：女性や高齢者が長く・楽しく続けられる子牛生産技術の実際

講師：松永 俊明 氏（松永産業動物院・代表／栃木県矢板市）

③「田村市の現状と畜産振興方策」

講師：山内 洋志 氏（田村市農林課長）

（2）総合討論 「和牛繁殖経営の展開方策」

3 閉 会

4 座談会

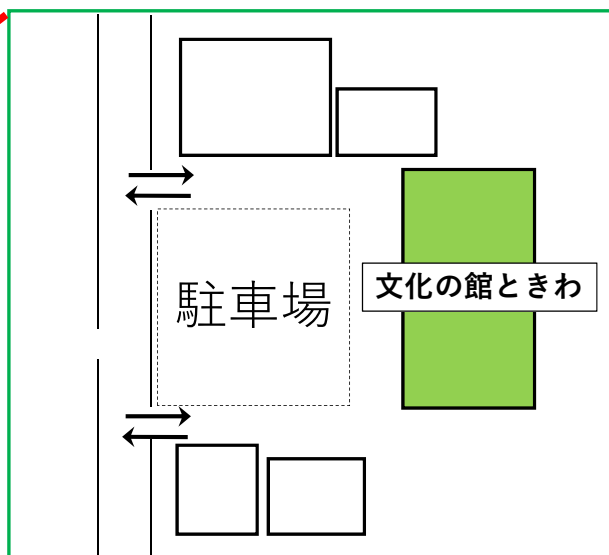
松永先生他講師陣を囲んで農家の皆様との意見交換を行います。

みなさま、ご自由にご参加下さい。

（参加詳細は裏面へ）



○会場へのご案内（「文化の館ときわ」（福島県田村市常葉町常葉字町裏1））



お車は施設の駐車場の空き場所に駐車をお願いします。また、貴重品などは各自での管理をお願いします。

○参加に当たっての注意事項

- ・参加は**無料**です。
- ・新型コロナウイルス対策を踏まえた会場準備のため、座席数に限りがありますので、以下の申込先に期限までに申込みをお願いします。
- ・なお、当日申込みは、空席があれば可能ですが、無い場合には、お断りすることもありますので、あらかじめご了承ください。また、受付で氏名等の記帳をお願いします。
- ・会場入場時に検温、手指の消毒にご協力をお願いします。また、会場内でのマスク着用をお願いします。
- ・体調のすぐれない方は来場をご遠慮下さい。

○参加申込（メール、FAX、お電話でお申込みください）

- ・申込内容：①氏名、②ご住所、③電話等連絡先、④ご職業・ご所属、⑤参加人数※

※ 複数名でご参加の場合、代表者から各参加者の①～④の情報をお知らせください。

- ・申込期限：**11月6日（金）**まで

○申込先・問い合わせ先

事務局：（公社）福島相双復興推進機構 営農再開グループ畜産班

メール：kanmin.chikusan@fsr.or.jp 又は右下QRコードをご利用下さい。

電話：松宮 070-3543-2256、藤野 070-3889-7544

FAX：024-502-1114

（お電話、FAX番号のおかけ間違いにはご注意ください。）

（公社）福島相双復興推進機構ホームページ：

<https://www.fsrt.jp/>

